

## 平成30年度個人研修報告書

鍛治恵巳子

日程 平成30年10月18日(木)/19日(金)  
項目 1日目「率直に語る地方議員に関わるお金の考え方」  
2日目「質問方法スキルアップ研修 初級編」  
「質問方法スキルアップ研修 応用編」  
場所 TKP 東京駅八重洲 カンファレンスセンター  
講師 高橋 伸介

### ①率直に語る地方議員に関わるお金の考え方を受講して

★政務活動費の増加ができない場合の考え方として、枠を広くしたらどうかなど。政務活動費とは、血液であり、ガソリンとなるもの。知識がないと道は開けない。政務活動費の状況で、人口5万人未満のところでは、交付していないというところが25.3%あった。

都道府県議会での最高議員報酬は東京都の月103万3千円、最低は島根県の65万4500円だった。

議員の仕事が明確ではなく、報酬根拠が薄いため批判にさらされやすい。しかし、総合的である議員の活動は多岐にわたり多くの時間を割く。

三重県議会では、現職議員からの仕事の内容を、聞き取りを含む全議員にアンケート調査を実施した。

ポイントとして、報酬、定数、政務活動費、年金など、議員にまつわるお金についてもっと報酬を上げてほしいなら、その分、市民を説得できる調査などもしなくてはならない。議員年金に関して、厚生年金案を元に議員の活動実態を検証しなければならない。集約化。多様化の流れとして町村議会の兼業制限緩和の流れもあるという。議員定数については、『会議』に必要な人員から定数を検討する。委員会に何人いて、討論、決議ができなくてはならない。

政務活動費は先払いから後払いへ、ネットの公開は本市はもうすでに行っている。論説の資料をいただいた。「自治体議員定数と報酬の適正水準を考察する」土山希美枝先生のかかれたものだ。本市にとって政務活動費は研修費とあわせて支給されるようになった。議員定数については、議論がかわされたものの、変わらず16名である。人数がいるならいるということを訴えなくてはならないし、人数が減れば負担がどれほどになるかという調査などもしなくてはならないと思う。主に議会改革委員会でやることになるのだろうが、個人的にいつでも意識していなくてはならないと感じた。

:

## ②質問方法スキルアップ研修 初級編を受講して

★議会は議員により合議し議決する機関である。というところから始まった。

一般質問とは、議員がその属する地方公共団体の行政全般にわたり、執行機関に対し、事務の執行の状況及び将来に対する方針等について所信を質し、あるいは報告、説明を求め又は疑問を質すことです。（地方議会運営辞典より）

一般質問のポイントとして、『知っていることを聞き、知らないことは聞かない』事と、自身の事前勉強と十二分なヒアリング。そのほか、質疑について、議員は質疑にあたっては、自己の意見を述べるができない。一般質問の延長のような質疑を永遠とする議員には議長は注意すべき。

質疑のポイントとして、誤った認識で事実の裏付けのない単なる「演説」「要望」もタブー。「指摘」は可、要望は必ず書面で行うこと。※常任委員会では範囲をやや広く運用されることが多いようだ。私も委員長となり、本委員会でも質疑が議題外になったり、意見を述べるような場面があった。このような場合、しっかりと注意、または注意を聞かない場合は発言を禁止できる。こころしてかかろうと思う。意見を交えた演説要望はなんの意味も持たないが、アピールになることもある。自分はこう発言したという有権者へのアピール。

会派代表質問については、例えば災害とか、会派でも重複することが多く、ないところが多くなっているようだ。

### 質問レベル1. 地元・住民要望型（2割から3割）入れる

議員報告でアピール度最大、選挙対策としても有効

### 質問レベル2. 財政・市政に関するチェック型

決算カードを読み切る必要がある。

（事務局に言えばすぐに用意してくれると思うが、何年も携わって決算カード得意な事務局員がいたら、即学んだほうがいいと。わからなければ財政課）

決算が大事！問題点が浮き彫りになる。決算審査意見書、事務概要をしっかりと確認すべし。枕詞にする「黒字を達成」「健全化判断比率」は良くて当たり前、ごまかされないように。

※決算カード・財政状況資料表・類似団体比較カード（総務省）確認！！過去5年分

### 質問レベル3. 行財政改革型

組合との関係で執行部が切り出しにくい合理化、組織運営、各種削減課題を指摘。

参考になるサイト※「地方制度調査会」※「全国市議会議長会」

※「自治体クラウドポータルサイト」

### 質問レベル4. 政策提案型（立案）型

市民の暮らしに直接かかわる一般施策に関する議員提案

地方創生・少子高齢化人口減少・乾杯条例・ポイ捨て条例など

参考になるサイト※「内閣府」「地域経済分析システムの活用」

★議員は現場と密接。現場の知識・知恵を提案し行政の共感を得、そして行政と協同へ、車の両輪として機能する。

- ◎ポイント
- ①完璧なシナリオづくり 角度を変えながら質問をする  
⇒「一流の舞台へ」
  - ②職員からの情報は宝の山
  - ③議員提案には財政効果も忘れずに

③質問方法スキルアップ 応用編を受けて

高橋氏の失敗談を中心に、『一人ではなにもできない』大切な環境調整などについて学んだ。大きな地雷を踏むと相手にされなくなった話など。追求型。そこまでの言い方はしなくてもいいととても反省したから、皆さんはしないほうがいいという話が印象に残った。2期目にして一般質問についての研修を受けたが、もっともっとというモチベーションになった。高橋氏が得意だったのは、銀行貸し付けをやっていたこともあり、お金だった。お金は大事。議員にまつわるお金や、市のお金についてももっと勉強する材料をいただいた。とても参考になりました。